

第3回 観光案内サイン等整備計画策定委員会

平成28年2月5日

産業会館3階第1会議室

1. 開会

委員長 ; 当委員会は、観光推進計画の推進委員会の専門部会として今年度開催してきましたが、今日が最後となります。限られた時間ですが、みなさんと意見を深めたいと思います。まずサインデザインについての最終確認をします。維持管理も重要だというお話もこれまでありましたが、マネジメントシステムについて議論を行います。デザインもマネジメントシステムも入れた全体をガイドラインという形でまとめさせて頂いて、そういったものをきちんと作っておくことで、委員会で議論した内容や方向性が形になって今後も引き継がれることとなります。本日の着地点としては、ガイドラインをまとめることがゴールになります。その中にはデザインもマネジメントシステムも含まれています。既存サインの取り扱いについては、頂いたご意見をまとめております。所有権などデリケートな問題もありますので、非公開の形で議論をさせて頂きたいと思います。

2. サインデザインについて

委員長 ; モデルに近づいて見ていただいて結構です。説明にもありました全面シート貼りの仕様です。印象などは如何でしょうか。

委員 ; すごく見やすいという印象ですが、表示面をはめ込むタイプはどの位小さくなるのでしょうか。

事務局 ; 一回り小さくなる感じです。

委員長 ; 縮小コピーで80%位のイメージでしょうか、結構小さいです。70%だと感覚的に半分位の印象になります。文字のフォントサイズは、既存のものより相当小さくなっています。既存サインが多言語表記もピクトもなくして情報が場所の名前だけという文字展開でしたので、それがピクトと案分しなくてはいけない分、小さくなってしまいます。

- 委員 ; 費用はだいぶ変わるのでしょうか。全面の方がすっきりしていいと思います。部分的だと色味が変わってしまいますので。
- 事務局 ; インクジェットでも印刷する年や季節によって必ず誤差が生じますので、全面インクジェットにした時に、その誤差をどこまで承知出来るかとなります。そういう面で、一部切り取った物だと、誤差が若干出ても大きく印象は変わらないと思います。
- 委員長 ; コスト的にもメンテ的にも、一番シンプルなのは焼き付け+塩ビ切文字だと思います。後の議論であるマネジメントシステムとも関わってきます。維持管理をしていくコスト負担をどうするのかというのも大きな課題です。フォントサイズは小さくなっているのに視認性は下がっていない、デザインの力はすごく大きいです。トイレ表示については如何でしょうか。
- 副委員長 ; ピクトグラムを使っている分には問題ないと思います。
- 委員長 ; 観光客にとっては重要な情報で、最終打ち合わせの際にお願いさせていただきました。実は宇治神社も宇治上神社も、神社の中のトイレは利用出来なくて、トイレ空白地帯に思えるけど、朝霧通りや塔の島には公衆トイレが整備されていますが、それは観光客にとってはわかりにくくて、施設に行けばトイレがあるだろうと。
- 委員 ; これは片面ですか。
- 事務局 ; 場所によっては裏も必要になります。既存は4方向に表示がありますが、最低でも2方向は表示できればと思います。
- 副委員長 ; 情報の更新と劣化に伴う更新の二通りがあります。この場合地図に描かれている情報以外は劣化による更新になります。劣化更新に対してどのタイプが一番良いのかという判断となります。
- 委員 ; 太閤堤の件がありますから、情報の更新がないとも言い切れません。フィックス出来ていないので難しいですね。
- 委員長 ; 方向として京阪宇治駅と兼ねる形で考えると、具体的には出てくると思います。地図にどこまでの内容を記載するのか、後で議論したいと思いますが、例えば、盤面更新をする場合の費用をどうするかと言った時に、民間的な情報も一定盛り込むとなると事業者負担の中である程度やっていくことが出来て、そ

の代わり更新性が非常に上がります。行政が全部やるとなるとオフィシャルなものしか情報として載せさせませんので、観光情報として適切なのかという議論もあります。マネジメントシステムの中で、柔軟に対応出来るように意見交換を、それこそ事業者さんにも入って頂いている専門部会だからこそ出来る議論だと思います。案内表示としてのわかりやすさ、観光サインであるという「観光」のところはどうなのかということになります。デザインの宇治らしさとかわかりやすさについてはクリアしたと思いますが、情報と維持について議論出来たらと思います。素材的にサンドイッチにしてグリーンをいれて宇治らしさを出しましたが、側面を天然木とするのか人工木とするのか議論がありました。

- 事務局 ; コストについて、今提案させて頂いている案は、どの案も差がありません。切り取りタイプは、作るのに手間はかかるので本体価格は高くなりますが、印刷の範囲が小さいのでその分が安くなって、トータルとしては変わりませんでした。木の部分が合成木材と天然木でしっかりと防腐処理をしたとものでは、天然木の方が高いです。そうは言っても単価的には一体につき 5 万から 10 万くらい上がる程度です。概算です。
- 委員長 ; 行政的には府内産材を推進していると思うので、行政だからこそコストを上げずに出来ないものなのではないでしょうか。
- 事務局 ; 今お話ししたのは、防腐処理をかなりしっかりした場合です。
- 委員長 ; 合成木材と天然木の劣化のスペンは 10 年程度でしょうか。
- 副委員長 ; 天然木の場合、厚みはどの位で考えていますか。
- 事務局 ; せめて 20mm は欲しいと思います。
- 委員 ; 素材は何をされる予定ですか。
- 事務局 ; 杉板と考えています。
- 副委員長 ; 南洋材を使ってはどうでしょうか。ただ南洋材は木目が出ないので人工木を使うのと変わらないです。年数が経つとグレーっぽくなってしまふのが難点です。
- 委員 ; 20mm ではどうか分かりませんが、杉材にすると反りますよ。
- 副委員長 ; 何が問題かということ、下部の水ハネによる汚損と劣化、黒ずみ

が懸念されます。それはどうするのか。上の木口にも金属をかけるのですか。

- 委員 ; 木のサンプルはありますか。
- 副委員長 ; 設計の時に検討しましょうか。
- 委員長 ; コスト計算をしてみないと。概算ではデザインによるコスト差は出ないと言うお話でしたが、劣化の問題と更新性とコストの問題、そして劣化とまではいかなくても日常の維持の問題などについて、一覧表を作って比べないと。最終的に良い物だからできるとも限らず、予算的にどうかということも関わってきます。
- ところで、これを拝見した時に危険な香りをしました。これだけ側面に空白があると、何か貼られるのではないか、独自の案内が追加される可能性があり得る。例えば「 への近道」とか、今後撤去するようなものが。そこで提案なのですが、商店街名などを大きく入れるのは美しくないのでは、お店の協賛で、小さい銘板を側面にとりつけることで、名前の上には貼られない、抑止効果はあるのではないのでしょうか。ネーミングライツとまでいくと厳しいですが。商店街や観光協会の会員さんなどにご協力いただくとか、そういったことも考えられるのではないのでしょうか。
- 委員 ; そこに矢印はつくのですか。
- 委員長 ; その辺が難しいです。提供しているから案内を出すとかチラシを貼るとか、掲示板として提供するのではなくて。
- 委員 ; いいアイデアですが、恐らく収集がつかないと思います。
- 委員長 ; 宇治の観光標識を良くするために寄付して頂いた、神社の改修に寄付したから銘板に名前だけが載っているものと理解されないのでしょうか。広告費としてではなく、寄付金として出して頂く。如何でしょうか。
- 副委員長 ; エリアマネジメントに繋がります。サインマネジメントシステムの話になります。
- 委員長 ; あの空白がちょっと恐ろしいかと。
- 副委員長 ; そんな品のないことをする人がいますか。

- 委員 ; 木の場合だと打てるといえば打てますね。
- 副委員長 ; 再生木材を使った方がいいかもしれませんね。
- 委員長 ; 子どもが怪我をしない高さについては配慮されています。
- 副委員長 ; 日本遺産の話ですが、他の自治体ではまだ何もやっていないというお話でしたが、このデザインで統一しては如何でしょうか。意匠権の問題がありますが、著作権は宇治市にあるので、宇治市が了承すれば。
- 事務局 ; 振興局から個別の市町村に話がいったって、市町村毎の横の調整はできておりません。個々に数も全然違いますし、個別で製作して発注されている自治体もあります。ご意見を頂いたので、振興局にも一応声はかけております。
- 副委員長 ; 以前見せて貰ったモデルがありましたが、あれは角が危ないので止めた方が良いでしょう。
- 事務局 ; その件については指摘させていただきました。宇治市で設置する数が多いので。
- 委員長 ; 可動式でやるとか、色味もガイドラインに則っています。それを最大限に活かしてスタイリッシュにデザインしたものは他にはないと思います。こういう形で出来ますよというのは提案した方が、もっと早く教えてくれたらという話にもなると思います。
- 事務局 ; 委員会で揉みますよという話はしてきました。他のところでも参考になれば一番。
- 委員 ; そもそも日本遺産のサインの管理は誰がされるのですか。
- 委員長 ; 日本遺産に指定されている所の所有者や管理者になります。可動式になっているのは、店舗も対象になっているので出し入れが出来た方が臨機応変に変えられて良いだろうという意味合いです。屋外設置の場合も必ず可動式にする必要があるかどうかは、状況を見て変える。可動式というのはイレギュラーなデザインなので、こういうこともできると提案をしていただいたという見解です。直設置に仕様を変えることも出来ると思います。
- 委員 ; うちにも幾つかサインを持っていますが、予想外の風が吹いた時に、アジャスターとキャストでは倒れてしまいます。まず

キャストの所から錆びます。

副委員長 ; 個店のところは毎日出し入れするのでそれでいいと、動かさないものは固定式にしてみてもどうか。

委員長 ; 上部のデザインは同じで、可動・固定については、個別に所有者や管理者と詰めていかれるのでしょうか。

事務局 ; デザインの一つの形としてお示ししてご意見を伺っていきます。下の鉄板を厚くして出来るだけ重いようにはしています。ただ、予測外の風や触られることも考えると、その辺りもまだ検討が必要です。それから管理の件ですが、イメージとして、財産は国からの補助ですので協議会のもの、管理は各自治体に降りてきていますので、管理主体は自治体になると思います。可動式を採用しているの、置いて貰う所、例えば神社と宇治市との間で、書面で何かしらの約束をする必要があると思います。他の市町村がどうなっているのか読み切れませんが、宇治市としてはっきりさせる必要があると思います。

副委員長 ; 本日欠席されていますが、京都府さんの方でそういった調整をされた方がスムーズにいくと思います。

3. サイン整備ガイドライン(素案)について

委員長 ; これまで議論を積み重ねてきたことを一旦整理して、ガイドラインという形でまとめていただきました。何かお気づきの点はありますか。デザイン案については、最終のガイドラインにする時には、決定版のデザイン案になります。検討の経過が後々わかった方がいいというのであれば、参考資料として残しておくという考え方もあると思います。検討案を削除してしまうと痕跡が残らなくなるので、その辺り判断が難しいということで、今回はデザイン検討案も残す形になっています。リノベーションについては、現時点で最終決定ではないので、事務局としてそのままでいい感じでしょうか。

事務局 ; 前回の委員会で p28 のデザインが良いというお声を沢山頂きましたので、委員会で確認をお願いしたいと思います。

- 委員長 ; 意見交換はしましたが最終結論が出ていませんでした。p28 の
タテ長表示面にリノベーションをする案でよろしいでしょうか。
- 委員 ; 前回欠席していましたので、一点だけお願いします。p26 の写
真にある足元のモチーフの取り扱いはどうなりますか。現状、
取れている所や割れている所もあります。
- 委員 ; 色も悪いですね。
- 委員長 ; 具体の検討はしていませんでしたが、テクニカルな面で如何で
しょうか。
- 事務局 ; 可能ならば撤去したいとおもっています。
- 委員長 ; 劣化が激しいのでシートについては撤去し、筐体についてはリ
ノベーションするという事です。
親委員会と関係してくると思いますが、p10 情報計画に「各種
の媒体を用いて相互に補完」することが書いてあって、p18 に
手元マップまでのデザインが記載されています。今回は観光サ
インなので、デジタル情報の発信方法などについて一体的な議
論ができていません。この専門部会の範囲を超えた議論ですの
で。ただ、非常に重要だということは了解されているので、ど
こに書き込んでいくのかとなります。p18 の手元マップは、ICT
的な発想ではなくて、現地で使うもののイメージでしょうか。
- 事務局 ; マップのデザインを同じようにプリントして。
- 委員長 ; 連動させてということでしょうか。デジタル的な物が重要だ
というのは、現地に来てわかるサインと、そのもの自体をマップ
化して発信するマップの整備みたいな所と、実はすごく重要で
す。突き詰めると、イラストマップ全体の見直しも必要になっ
てくるという話になってきます。今回のガイドラインの中には
非常に書きづらいところです。親委員会かどこかで、情報発信
の整理をする時に、サイン整備に伴い、情報発信も連動してや
っていく必要がある、そこで何をするのかという議論をさせて
頂けるとありがたいと思います。
- 委員 ; アプリをやるかやらないかについては、前から意見があります。
でも宇治単体でやってもという話もありますので、嵐山に乗っ
かるかとか京都市との連携もありますので。取り敢えず Wi-Fi

は一緒になりましたし。

委員長 ; インフラがあっても、アプリやコンテンツがなかったら使えません。親委員会でお話しさせて頂いたのは、全体的な観光振興の視点に立ってこのサインを活かしていくためには何をしたらいいのか次に議論する必要があるということ、ガイドラインそのものではなくて、これに関連して書き込めてないところがあるということ、議事録にきちんと残していただきたいと思いを。必要だと言いながら今のところ手が付いていなくて、ではいつやるのかと言う所です。

今後のことになりますが、p14 に使用ピクトグラムの記載がありますが、今後具体的な設計に入っていくところで、どういう基準で最終決定に至るのか、スキームのイメージはどうなるのでしょうか。ガイドラインで示されているので、サインを作る際に、メニュー表として理解出来るというか、位置づけが若干曖昧だという印象を受けました。ガイドラインなのでこれを参考に実施設計して下さいということ以上は言えませんが。

事務局 ; 来年度以降の議論のなかで検討していただきたいと思いを。

委員長 ; こういふ感じと言う方向性が示されている、そういう理解で大丈夫でしょうか。「宇治らしいオリジナルのピクトグラムが必要かどうか要検討」とあって、まだ詰まりきっていない。ガイドラインだけど、まだこれが絶対ではないというニュアンスで書いて頂いています。

委員 ; フリーWi-Fiのピクトなども欲しいです。皆さんに協力して付けて頂いていますので。でも、経過によって増えていく可能性があつて変動があるので、その修正についても考えないといけません。

委員長 ; JR 宇治駅前であれば全体が Wi-Fi ゾーンになれば印象が違ふでしょうね。円を描くのは出来ないことは無いと思いを。誘導看板は難しいと思いを、案内看板で載せていくということは。更新の頻度によつてもどこまでの情報が載せられるのか、観光情報と地理的信息、観光客の中でも特にインバウンド向けとか、情報の質によつてどこまで載せられるか検討が必要にな

ります。

4. マネジメントシステムについて

委員長 ; きっちり管理をして行こうというご意見が、委員会でも出ていましたが、それに対する事務局の提案でした。ご意見やご質問について如何でしょうか。p2 に宇治市商工観光課とありますが、商工観光課まで必要でしょうか、宇治市で良いのではないのでしょうか。日本遺産との連携もすでにここですしていますので。

委員 ; アンケート調査について、どの段階からするのでしょうか。ここから掘り返すとややこしいかと思えます。

委員長 ; 写真で提示して頂いたのは、設置前に実証実験をされたものを示して頂いています。それを実際にやってみて、もしくはいくつか設えてまちの中に配置してみて、平等院で待ち受けて、いらっしゃった方がどのサインを見てきたのか確認する。実際は新設されたサインは全く見て無くて、全然違うもので来たとか、あるいは実際に見て頂いて印象を伺うとか。それを事前にやっても良いし事後にやってもいい訳ですが、どの段階で組み込むのかと言うことです。古賀委員のご意見としては、設置する前に実施するとややこしくなるということなのではないでしょうか。

委員 ; 沢山の意見を聞くというのはちょっと怖いかなど。中村籐吉さんの前に大小のものを置いてみて、どちらが良いですか位だったらいいと思います。位置はここでいいですかとかまでは。

委員長 ; その確認を誰がするのか、そのところですね。実施設計をしていって配置案を決めていく、来年度にやっていくことの作業になると理解しています。マネジメントシステムの中で、その辺りの流れ、何をするかという流れの確認です。今の話でいくと、この案では、事前にアンケートをしようとは言って無くて、一応、置いた物については効果検証をして、それをどう維持していくかについてはやりましょうというPDCAのスタートラインを「設置」をスタートにしたプランになっています。設置するのがこれでいいのかも含めて確認するということになるので、もう一つ前のサイクルをまわすことになるので、ちょっと

違う提案になります。一手間入れることになるので、そこは中々難しいところで、社会実験をやったから正解が出るとも限りません。事後のアンケートについては、客観的な状況として、一気に全てのサインが整備できるわけではないということがあります。日本遺産のものは今年度発注で先行してやっていくことになると思います。設置してみて、素材の劣化とか一年置いてみてどうかとかを見つつ素材の最終を決定する。申し訳ないですが、それ自体を検証の対象とさせていただくことも可能です。設置エリアの優先順位については、アンケートを取らなくても了解が取れるものについてはやっていくけれど、この辺りは意見がありそうなことについて少し意見を。大々的な社会実験となるのか、一部の方に意見を伺うのか。幸いなことに、宇治には観光ボランティアガイドクラブという観光に携わっている市民の方もいらっしゃるし、文教大学で観光地域デザインを専攻している学生達、留学生の団体に少し協力を頂くとか、完全オープンという訳ではありませんが、少し外の目で見頂く、あるいはユーザー目線で見て頂くことも可能です。スキームとして今日議論すべきは、p3「検証とふり返りの考え方」になっているので、整備の手順のところではp2の「評価カルテの活用」「ガイドラインに基づく計画」となっていて、ガイドラインの中に検証をどこまでした上で設置するのかまでは、書き込みにくいです。

- 委員 ; 中にはするどい意見もあると思います。
- 委員長 ; 社会実験というのは、一般的に非常に難しく、ものすごくコストと手間がかかります。必ず絶対良い結果が出るとも限らなくて、手間の割にはわからないという非常に重要だけど難しい手法でもあります。客観的に一般論として言った場合。特に、ないものについて「どうでしょう」というのは、考えている内にモニターの人もわからなくなるという、若干、堂々巡り感があります。
- 委員 ; 道路の舗装であれば、宇治橋通りで実際に歩いて視覚的にわかったので、5パターンくらいやってわかりました。サインの場合

- は、それぞれの主観とかいろいろありますし。
- 副委員長 ; 手持ちのマップがありますしね。なかなか効果を検証し難い。
- 委員長 ; 皆さんも関わって頂いている駐車場対策でも、どこでどう案内を出すのかデリケートな議論が出てくると思います。
- 委員 ; サクラプロジェクトのワークショップ的な感じで、みんなでこれを持ち歩きながら。
- 委員長 ; それは出来ると思います。ガイドラインなどのオフィシャルなものに入れるのは難しいですが、間違いなくやらないといけないのは、作ったサインがいいかどうかというのは検証しなくてはいけないということで、これは今回絶対入れるべきだと思います。ただ、前の段階をどうするのか非常に難しいので、あくまでも有志で、もう少し広く意見を聞いてみよう、パブリックヒアリングではなくコミュニティヒアリング、コメントというか、関係している人達の有志に集まって頂いて、それだけでも中宇治のエリアでは結構人が集まると思います。
- 委員 ; その方が早いと思います。
- 副委員長 ; 実質的なところだと思います。
- 委員長 ; 観光協会としてはどうなのでしょう。これからどういう形で情報発信をするのか、これから観光事業者や地元の方にお伝えしていく中で、実際に作るプロセスの早い段階で意見を伺える機会を作っておくことは、こういったものが地元で根付く、理解を得られるための一つの重要な手法だと思います。観光事業者の顔を浮かべると、事前に提示することができたら、かえっていいのではないのでしょうか。
- 委員 ; 中立的な立場であるボランティアガイドからのヒアリングがいいのではないのでしょうか。
- 委員長 ; よく利用されているので。後は外国人や学生とか、その辺のバランスが悪くないのかなと。
- 委員 ; 対象者はこちらから指定すればいいのでしょうか。
- 委員長 ; 目的がはっきりしているので、事後でもそうだと思います。まとめさせていただきます。マネジメントの全体の大きなスキームについては、特にご異論はない。p3 事業実施前の整備計画の検証

のところ、ガイドラインとの照合をしていくプロセスの中に、社会実験とかは書きにくいですが、「地域の意見を聞く」と入れることかなと思います。アンケート調査やヒアリング調査、観察型調査という手法をここまで細かく書き入れるかどうかは、実施出来るかどうかということもありますので、効果検証のところも、こういうことが考えられますよという検証の例なのでそこは（例）として頂いて、どれが有効なのかは状況を見て選び取っていけるようにしたいと思います。整備計画の検証もガイドラインと照合するだけでなく、地域住民や地元住民の聞き取りをする、その手法についてはワークショップなのかアンケートなのか会合単位で聞いて頂くのか、裁量幅を持たせられるようにしておいて。ただ全く意見を聞かないでいきなり作り込むのは、避けた方がいいと思うので。それを一行足して頂いていいでしょうか。そういう意味でいくと、サインマネジメント連絡会についても、後ろに（仮称）と入れて下さい。そういう場が必要だということはあるのですが、実際この住民というのが、ボランティアガイドやまちづくりに関心のある方とか、こういう場に関わって頂くことが、結局市民を育てることになるので、その辺を少しうまく。事業者や協会、商店街の協力で、関わってくれる仕組みをうまく作っていかないといけないと思います。そこでお金を出してくれるのが一番良い関わりかなと思ったのです。一番利益を受ける方なので、事業者が寄付をして下さったというのは、対市民向けにもわかりやすく、みんなで作ったという感じになっていいと思います。ただデザインコントロールが難しくなるので、あくまでも寄付なので統一の名前の銘板だけとさせて頂かないといけなくなります。ロゴを入れるとか営業時間を入れるとか、そういわれてもちょっと困る、その辺が難しいです。

- 委員 ; やった方が良いでしょうか。
- 委員長 ; お金の面であった方がいいですね、財源的にはあったほうが良い物が作れると思います。自分たちが作ったという意識を事業者に持って貰いたいというのもあります。行政が補助金を取っ

てきて作るものだというその発想そのもの、自分たちは出さなくていいのかという声が、地元から上がってきて欲しいです。これだけやり直すなら相当お金がかかる、少しは出すから良い物作って欲しい、そういう町になると市民としてはうれしいです。「宣伝にならないのだったら出さない」そういう小さい単位で考えていたら、市民の理解はだんだん厳しくなってくるのではないのでしょうか。

- 委員 ; 商店街でお金を集めて。
- 委員長 ; 宣伝効果は低いですね。今までのやり方はそうですけど。
- 委員 ; ボランティアガイドは当然あるべきだと思いますが、お店によく聞きに来られる、目的地の反対方向に歩いてきた時に、逆にお店の人が怒られるとか。
- 副委員長 ; 一回目の委員会で話が出ましたね。それをどうして商売の機会だと考えないのか、そういう問題です。
- 委員長 ; 怒られるから何ですか、その後が問題です。
- 委員 ; 何かわかるものをしっかり立てて欲しいという意見が出てくると思います。
- 委員長 ; それをどうしたらわかるのか考えるのが如何に難しくて。
- 副委員長 ; 後の議題である現況サインの取り扱いについては、そもそも設置目的や示す方向がよくわからないサインや仮設のサインが出てきますが、いずれにしても誰かが設置したものだと思います。それらの取り扱いについては、基本的には除却するべきで、一回目の議論に戻りますが、サインは数が多ければいいということではない、ということを確認しておくべきです。
- 委員長 ; マネジメントシステムの中で、結局その話に戻ってしまうならば、事業者の声を聞いて、むしろわかって頂く機会に出来るような仕組みがあった方がいいということですね。だから観光協会でも商店街でも、例えばワークショップをそれぞれやって頂く。要望ではなくて、自分達と一緒に作りますというトーンでどこからスタート出来るのかということが重要だと思います。配置計画やデザイン計画をお示しした段階でご意見を聞く。観光客から質問を受けたら、その時は「市に言っておきます」

と答えるのでしょうか。「どこで迷われましたか」と聞いていただいて、「なるほど」とデータ蓄積して今回のサイン整備に生きていくようなサイクルになっていくのであればいいのですが。もし一緒に作っているのではなくて、わかりやすいサインを作るのは行政で、その尻拭いを店先でさせられていると思っていらっしゃるとすれば認識は厳しいですね。そもそも、そこでお商売して生活ができるために今回のサイン計画もやっているはずなのに、そのマインドですっといくと、観光事業者でない市民から本当に理解を得られなくなってしまいます。これだけの投資をして中宇治を整備して、それは宇治市全体の利益のためですが、でもそうは理解されない、その辺りのことをどうわかって頂くのか、「観光宇治」なのか・・・という話になってきます。新しい時代に、デザインだけでなく仕組み自体も新しい観光サインを作ろうということなので、今後の情報発信も含めて、今の意見は大事だと思います。今回のマネジメントシステムの中に詳細には書き込めませんが、議事録に残して頂いて、今後どういう形で地元の方との協働を図っていくのかということは、改めて議論させて下さい。

委員 ; 基本的に全て歩行者目線の計画で、前からの繰り返しになりますが、車での来訪者も何割かいらっしゃいます。道路管理者の問題があって、宇治市だけでは決められないものもたくさんあります。先程の「源氏物語のまち」の話もそうです。それもリンクして必要で、切り離してしまっただ中で運用計画を作るのではなくて、車の人のサインも何らかの形で、運用して行く中で考える必要があることは、この中に入れていただきたい。

委員長 ; 先程も台帳の話がありましたが、京都市と違う側面があると思いました。宇治市の場合、台帳を作った時点で道路管理者が府になるケースが沢山あって、この台帳自体を、デザイン案の開示と同様に、山城地域全体では共有してもらい、少なくとも府とは共有出来るような体制を作っていないと、結果的に違う設置者が違うものを作ることが起きる可能性があります。情報を整えたら、必要などころにこちらからどんどん提供して

いくということです。その趣旨で言うと、体制の項目中でのマネジメントは書かれているので、行政としては関係機関や関係省庁との横断的な連携でサインを考えていく。それを体制のところに書き込むのがいいと思います。特に歩行者、自動車の話だけでなく、3月開催の交通対策でも、標識や案内、情報発信をどうするのかということは大きなテーマになると考えていて、歩行者的な標識とあわせてそちらも考えていかななくてはならないと個人的には思っています。どうするというところまでは、書き切れないのですが、体制のところに追記してもらおう。これは内部の図だけですが。府市連携とか他部局との連携について、メンテナンスのところ足らせて頂いてよろしいでしょうか。それとも運用の頭のところに持ってくるか。やはりメンテナンスでしょうか。どこに追記するかは、副委員長と相談させていただきます。

その他

委員 ; 景観の話になりますが、JR 宇治駅前に「北方領土を返せ」という看板があります。それ自体は大事なもので看板の存在意義は認めますが、JR 宇治駅の前にあるのが景観上の意味でいいのかどうか、この場を借りて言いたいと思います。設置者である宇治市役所の登り口に移設してはどうですかと言っています。

委員長 ; JR 宇治駅に「いじめをなくそう宇治」というバナーが貼られた時に、取って欲しいとすぐお願いしました。観光客にとっては「いじめが多いまち」と同じ意味ですから。ここで言わなくてもいいですし、駅に設置したいというなら地元住民の乗降客が多い六地蔵とか大久保でやって欲しい。そのセンスですよ、観光宇治ということを知っているのか。設置案を作る段階で、これについての意見を聞くのも良いですが、フィールドワークとしてある種の市民意見としてあげるようなことは良いかもしれませんが、まち歩きとして。委員会として正式に言うのは難しいですが、このまちをどう見せたいかという統一したマインドの問題だと思います。行政職員も一緒に歩くということです。

市長も一緒に歩いてもらいますか。どう見られているかという意識が常に、見た人がどう思うかという意識があるかというのが大きいです。

- 委員 ; 全体的に見られますね。駅からの。
- 委員長 ; 改札を出たところから歩いてみる。バリアフリーチェックというのは、結構やられていると思います。観光チェックをやった方がいいですね。